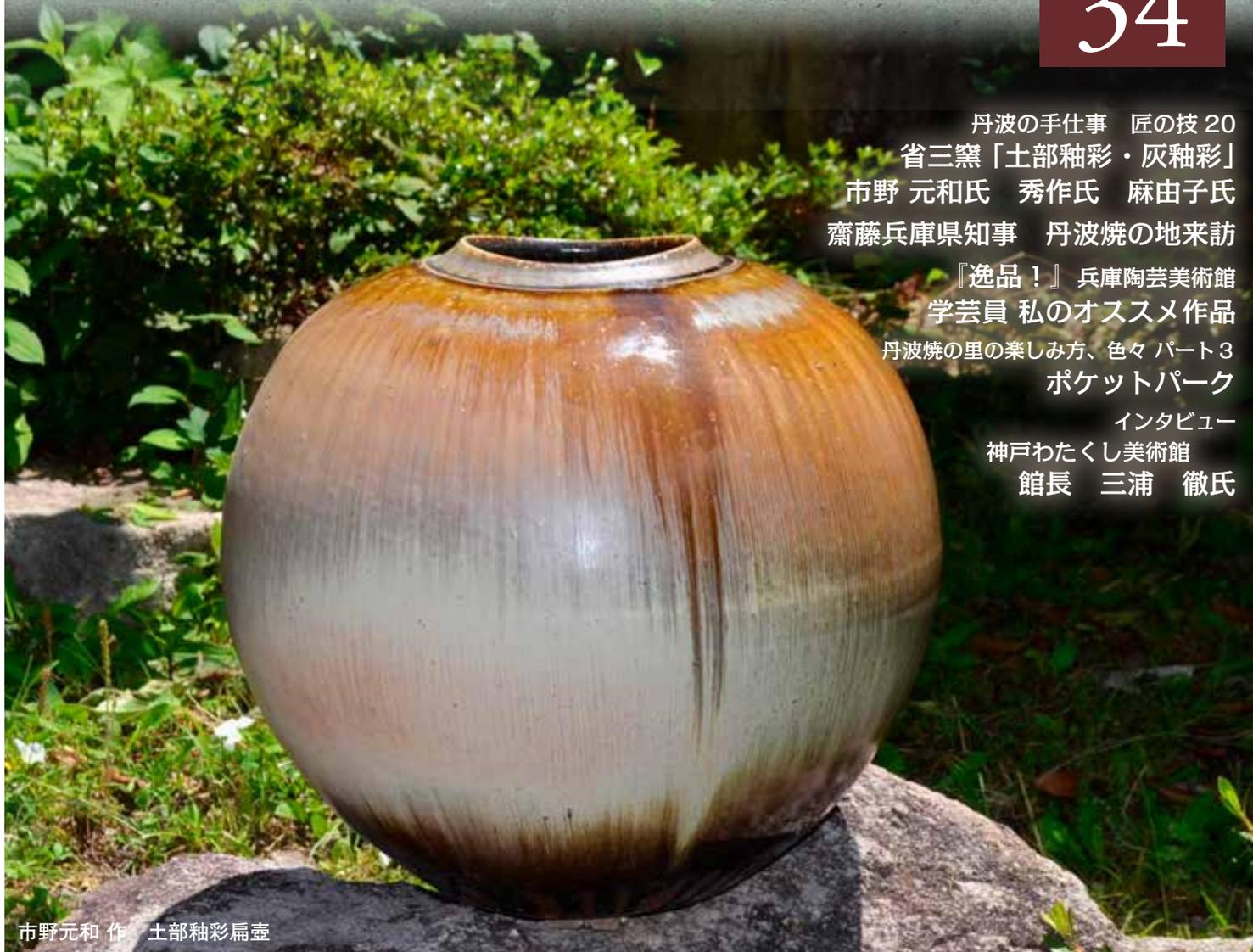


丹波焼の里 ミュゼシター

2023
autumn
winter
vol.
34

発行：やきものの里プロデュース倶楽部

丹波の手仕事 匠の技 20
省三窯「土部釉彩・灰釉彩」
市野 元和氏 秀作氏 麻由子氏
齋藤兵庫県知事 丹波焼の地来訪
『逸品!』兵庫陶芸美術館
学芸員 私のオススメ作品
丹波焼の里の楽しみ方、色々 パート3
ポケットパーク
インタビュー
神戸わたくし美術館
館長 三浦 徹氏



市野元和 作 土部釉彩扁壺



以前よりも丹波焼の知名度は高くなっており若手には勢いがあると感じています。丹波焼の地をもっと海外の人に訪れてほしいという元和氏とともに、そこには明るい未来の丹波焼の姿がありました。

展示会など日本各地で活躍されている秀作氏。
元和氏は2018年までの11年間、神戸芸術工科大学で教授を務めました。父の省三氏は窯焼きが好きで、ともに登窯を焼き、炎の雰囲気を見ながら掴み取る感覚を受け継いだと話される元和氏。この経験は、現在進行形で秀作氏にも引き継がれています。

秀作氏の柞灰(いすばい)に鉄やコバルトなどを混ぜて、上から吹きつけて表現する灰釉のグラデーションや、釉薬が流れてほかに現れる多種多様な発色は、言葉では言い表せない程の美しさです。麻由子氏は、色味の違う化粧土や釉薬を器に装飾し、お人柄を映し出したような可愛らしく心癒やされる作品を作られています。



市野秀作 作 灰釉彩鉢

丹波の材料を使った釉薬の研究をし、市島釉の創作者である先代の「省三窯」の名をこれからも引き継いでいきたいと、先代の釉薬研究を基に探究を重ね、現在の土部釉彩や灰釉彩での表現へと繋がっています。市島釉は、丹波市市島で採取した赤土に土灰を混ぜたもので、元和氏は、これをベースに様々な材料を調合して土部釉を考え出しています。現在は、鋭く切り立ったアルプスの山々を表現した「岳」シリーズに熱心に取り組まれています。ロクロで厚めに成形し、細い針金で作品の表面を削ぎ取り、土の質感と形の緊張感をもたせることで山々を表現した作品は、新たな境地を切り開いているかのようなのです。



市野麻由子 作 器 釉飾り

丹波の手仕事
匠の技 20
省三窯「土部釉彩・灰釉彩」
市野 元和氏・秀作氏・麻由子氏



省三窯 市野元和・秀作・麻由子

T 669・2135

兵庫県丹波篠山市今田町上立杭2・2

電話 079・597・3450

文・田尻美友紀

写真・迫田隆

齋藤兵庫県知事 丹波焼の地来訪

丹波焼の里では、ゴールデンウィークに「春ものがたり」というイベントがあり、齋藤元彦兵庫県知事が視察された。

兵庫陶芸美術館では子どもたちが陶芸の土で遊んでいるところを見学し、自身も土に触れられた。その後窯元を訪ねたり、最古の登窯に薪をくべたりされた。丹波焼の若手作家5人と登り窯の横で対談。

若手の作家たちは「日本六古窯の産地として伝統を守りつつ新しいものを取り入れていきたいし、若い世代に向けた作品も作りたいです。日本だけでなく世界中の方たちに丹波焼を知ってもらいたい」とこの産地で活動する思いを語った。



齋藤県知事と5人の丹波焼若手作家

齋藤知事は「初めて火の入った窯に薪を入れその熱気に驚くとともに、モノづくりのリアルな熱さを感じることできました。丹波焼は兵庫県の宝です。伝統の地場産業である丹波焼に若い方が伝統を継承しつつ活性化していかなければならない。兵庫県の『フィールドパビリオン』のプレミアム・プログラムとして丹波焼の里を選定しており、兵庫県は、丹波篠山市とともに丹波焼を盛り上げていきたい」と、青空の広がる初夏のさわやかな風の中で熱く語られた。



窯に薪を入れる 齋藤県知事

※「フィールドパビリオン」大阪・関西万博に向けて地域の持続可能な未来を実現する活動の現場(フィールド)を展示館(パビリオン)に見立てて発信する取組です。

文・上田智津子 写真・迫田 隆

学芸員 私のおススメ作品



淡路製陶 《色絵松に鶴図花瓶》 明治時代～昭和時代 兵庫陶芸美術館 「令和の新収蔵品展」に出品

北陸地方の某所に伝わったのは、高さ44.5cmの一对の花瓶です。これには漆塗りの台座が伴っています。 本作は、胴部は口クラ成形成、口頸部と脚部は型成形され、これら3つを接合して作られています。この接合部には継ぎ目を隠すように、装飾も兼ねて金彩が施されています。胴部には、青みがかった灰色の波と、墨色の濃淡をつけた岩の絵付けが施されています。さらに、緑の葉が茂る松や、赤・

白・黒の絵具が用いられた鶴が描かれています。頸部・脚部の薄桃色の桜文は金彩で縁取りされています。これらの絵付けは、釉下彩のような印象を受けますが、器面全体は下地として白化粧を施した後、透明釉が掛けられ、釉上に絵付けされているのがうかがえます。

淡路製陶は洲本市で焼かれた陶器です。本作の高台内には「福平」印が見られます。印銘の福平は、明治時代より活躍した田村福平です。

明治15年頃、福平は珉平焼の陶工であった兄・久平と共に、製陶に従事し、明治29年に「淡路製陶株式会社」を設立しました。また同20年頃には、おのころ焼といわれた一見すると釉下彩を思わせる、特色のある色絵陶器を生み出しています。その後、福平は明石市大蔵谷に移り住み、大正末期頃まで活動を続けました。また福平らが設立した淡路製陶株式会社は昭和初期まで製陶を続けています。

本作は高さ40cmを越える大型製品であり、大変手の込んだつくりとなっています。さらに釉下彩風の柔らかな色彩で表現された丁寧な絵付けが映え、稀に見る優品といえるでしょう。

学芸員 高村 恵利

丹波焼の里の 楽しみ方、色々 パート3 ポケットパーク

丹波焼の里を歩くと、丹波焼と結ばつた風景にあちこちで出会えます。散策に疲れたとき、上立杭には、ちよっと休めるポケットパークが3カ所あります。これらの施工には、上立杭の窯元さん達も積極的に関わっていて、手作りの丹波焼の「ピッコロ石」やオブジェがあしらわれています。



陶の郷前 ポケットパーク

陶の郷の下にあるポケットパークは、川の脇にあり、立杭のまちなみが一望できます。そこには、丹波焼で出来た腰掛けが4個有り、よく見ると、それぞれ違う穴が開いています。それらは、点字のパターンで「た・ち・く・い」と描かれており、文字は暗くなると灯りが灯ります。敷地の川側には、様々な色や大きさのリング状になった焼き物を重ねた、美しい焼き物のポールがあります。



住吉神社入口 ポケットパーク

上立杭住吉神社の入り口にあるポケットパークには、ゆるいカーブ状でゆったりと座れるベンチがあります。ベンチの後ろには、8本の個性豊かな丹波焼の燈籠があります。歩道との境には、四角のピッコロ石、公園の後ろの境には、丸いピッコロ石が並べられています。公園の約半分は石畳になっています。石畳の中にある幸福のハートの石や、燈籠に描かれた伊勢エビを探してみられてはいかがでしょうか。



幸福のハートの石



燈籠の伊勢エビ

県道沿いの坯土工場の北には、丹波焼の里の玄関口にふさわしい、少し大きめのポケットパークがあります。くつろいでいただけのように、3台の丹波石のベンチや丹波焼で出来た4個の腰掛けがもうけられています。ここでも、点字のパターンで描かれた「た・ち・く・い」に出会えます。公園入り口には、4本の円柱の燈籠があります。また、四季を通じて花を鑑賞できるよう、オオヤマザクラ、サルズベリ、キンモクセイ、ヤブツバキなど多彩な花木が植えられています。上立杭散策中の休憩にご利用ください。



坯土工場北 ポケットパーク

文・写真 植田 正実

源泉かけ流しの日帰り天然温泉



緑に囲まれた広い露天風呂で ゆったり、のんびり、ほかほか。農産物直売所、軽食コーナーも併設、1日ゆっくりお過ごしください。



営業時間 AM10:00～PM9:00 (PM8:30 受付終了) ※営業時間は変更になることがあります。 定休日 毎週火曜日 (祝日は営業) 〒669-2153 兵庫県丹波篠山市今田町今田新田 21-10 TEL.079-590-3377 http://yume-konda.com/ ◆入浴料◆ 大人 700円 (中学生以上) 小人 300円 (小学生) ※小学生未満 無料



interview

わたしの宝物

— コレクションとは継承難蒐集易なるもの —

神戸わたくし美術館 館長 三浦 徹氏



プロフィール

- 1937 北海道に生まれる
- 1964 兵庫県立神戸医科大学卒業
神戸大学医学部
産科婦人科学教室
- 1967 兵庫県がんセンター附属
病院勤務
- 2007 兵庫県産科婦人科学会会長
- 2014 医療現場退任

2022年6月兵庫陶芸美術館特別展『受贈記念 平井昭夫×三浦徹 コレクション やきものを愉しむ — 二人のまなざし —』が開催されました。そのうちのおひとり三浦徹氏にお話を伺いました。
コレクションを始めるきっかけは何だったのでしょうか。

19歳（1957年）の時まで遊ります。神戸医科大学医学進学過程（丹波篠山市）に在学していました。ある日友人と立杭を散策中、窯元（のちに省三窯と判明）の片隅に段ボール箱を見つければ、覗くと細口瓶が数個入っていました。



市野省三作 細口瓶
兵庫陶芸美術館蔵

とても心に響くものがあり、その中の一つも是非とも譲ってほしいと家人らしき婦人に懇願し、手持ちのわずかなお金を支払い、無理を言って譲っていただきました。それが陶芸との最初の出会いです。

産婦人科医となり懸命に職務に励んでいましたが、40歳代前半頃生涯の趣味を持つべきとの考えが芽生え、たまたま目にした陶芸教室に入会しました。きつとあの細口瓶が頭の隅にずっとあったのでしょうか。やきものを作るにあたり、勉強のために陶器を集めたのが蒐集の始まりです。

敷地内には立派な工房があります
が、ご自身の作陶歴は。

そんなことで陶芸教室の門をくぐり、趣味として陶芸に没頭しました。ロク口に向かい細口を作るとき

は、まだ現役の医師でした
が、手術をするのと同じく
らい、息を止め無心になっていたことを思い出します。丹波立杭にも何度も通いましたね。



美術館内を案内する
三浦先生

日本伝統工芸展近畿展には数回入選することができました。

どのようなものをコレクションされてきたのでしょうか。

作品に出合った瞬間に「いいな！」と直感したものを入手しています。高名高額な作家の作品ではなく、これから成長するであろう作家の質の高い作品を手に入れることを喜びとしています。ただし、その作者が、観る人に媚びるような作品を作り出すと興味が失せてしまいます。

コレクションとはいかなるものとお考えでしょうか。

蒐集する動機は「欲しいなあ」と思ったものを手元に置きたい。そして作品が発するエネルギーを受け、明日への活力にしたいという素直な想いからです。



神戸わたくし美術館内の展示の様子

現役時代には学会のため全国各地に赴く機会があり、時を見つけては美術館や窯元などに足を運んだものです。

「ご自宅に美術館を開設された理由は。」

コレクターとして蒐集した作品を皆さまに観ていただきたい。また自身が作り溜めた陶芸作品も展示したいとの思いから2000年に「神戸わたくし美術館」を開設しました。祖母が建てた元旅館「青山」を改装し、展示のため李朝の調度品を設えています。

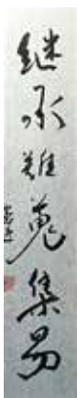


北村圭泉揮毫「青山」

年に数回展示会を開催し、広域からたくさんの方々に
お越しいただいています。

分身ともいえるコレクションを美術館に寄贈されたのはどのようなお考えからでしょうか。

コレクションとは、継承難蒐集易なるものです。これは私の造語なんです。集めるのは簡単ですが、これを維持管理していくのは容易なことではありません。アート作品は私的に持つものではなく、公的な美術館に寄贈して広く観てもらいたいという気持ちが芽生えたからです。



阿部憲逸書「継承難蒐集易」

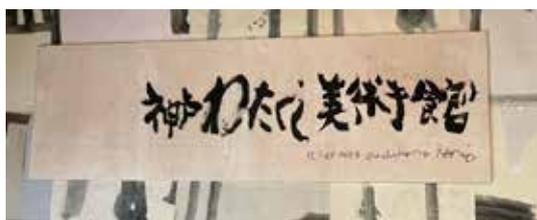
2017年3月、兵庫陶芸美術館に寄贈の旨を伝えました。学芸員さんが頻繁にお越しになり、押し入れにびっしり詰まっている作品を、ネズミの糞まで片付けながら（笑）丁寧に調査してくださったので、寄贈までには約5年もの長い月日がかかりました。

結果、寄贈作品は184件（うち参考資料5件）になり、昨年のコレクション展では多くの方々にご覧いただくことができ、とてもうれしく感慨深いです。

コレクターとしての今後は。

わたくし美術館を開設して以後は、立体作品を展示すると壁面が寂しいので、絵画も飾るべく蒐集を始めました。陶芸制作は止めたが、コレクションに対しては引き際が悪く、私の「コレクター病」は不治の病のようです。これからも、ご縁のある丹波の里に足を運びますし、何かできることがあれば協力させていただきます。

ユーモアを交えながら貴重なお話を聴かせていただき、ありがとうございます。



堀尾貞治作 神戸わたくし美術館

「神戸わたくし美術館」の観覧は要予約
(tel/fax 078-621-0366)
神戸市長田区西丸山町2-7-5
(神戸電鉄丸山駅徒歩5分)

※イベントの内容は、変更・中止となる場合があります。
※最新の展覧会・講演会・ワークショップ等の情報は当館ホームページをご覧ください。

●特別展のご案内

日本工芸会陶芸部会50周年記念展

未来へつなぐ陶芸－伝統工芸のチカラ

9月9日(土)～11月26日(日)

これまで日本の伝統工芸を牽引してきた日本工芸会陶芸部会の活動が2023年度に50周年を迎えました。それを記念して開催される本展では、伝統陶芸のこれまでのあゆみと未来へつなぐ技と美を、歴代の人間国宝の作品から新進作家らの最新作まで137名の139作品によって紹介します。



石橋裕史《彩刻磁鉢 滲瀝》
2011年 兵庫陶芸美術館

令和の新収蔵品展

12月9日(土)～2024年2月25日(日)

当館に収蔵される作品は、丹波焼をはじめとして、兵庫県内産のやきものから、国内外を問わず現代のやきものまで多岐にわたります。本展では、近年新たに加わった収蔵品の中から、初公開を含む選りすぐりの作品をご紹介しますとともに、その魅力に迫ります。



出石《染付牡丹孔雀図水注》
江戸時代後期～明治時代前期 兵庫陶芸美術館

2展同時開催

フィンランド・ガラスアート－輝きと彩りのモダンデザイン－

ムーミンの食卓とコンヴィヴィアル展－食を共にすること－

2024年3月16日(土)～5月26日(日)

1930年代から現代まで、北欧フィンランドを代表するデザイナーや作家たち8名が「アートグラス」と銘打って制作した芸術性あふれるガラス作品を通して、洗練されたフィンランド・ガラスアートの世界をご紹介します。合わせて、ムーミンの物語から食文化や共生をテーマとする原画や人形を紹介する展覧会も同時開催します。



カイ・フランク《Art-object, unique》 1970年代後半
ヌーヤルヴィ・ガラス製作所 ©Collection Kakkonen Photo Rauno Träskelin

兵庫陶芸美術館 〒669-2135 兵庫県丹波篠山市今田町上立杭4 電話：079-597-3961 (代表) HP <https://www.mcart.jp>

●テーマ展のご案内

2023年度 著名作家招聘事業×テーマ展

竹内紘三展-Recollection-

12月9日(土)～2024年2月25日(日)

鑄込みによる白磁の四角い筒状のパーツを組み上げ、焼成後たたき割る《Modern Remains (現代遺跡)》シリーズを2006年頃から展開する竹内紘三氏(1977-)。金属、木、ガラスなどの異素材を組み合わせた作品や、陶を用いた幾何学形態の《現蹟》シリーズによって深化する竹内氏の造形の今に迫ります。



竹内紘三《Modern Remains Stump》
2015年 個人蔵

丹波焼の世界 season7

3月11日(土)～2024年2月25日(日)

2017年、日本古六窯のひとつとして日本遺産に認定された丹波焼は、平安時代末期以降、800年以上にわたり時代の求めに応じて、変化しながらつくり続けられてきました。緑色の自然釉が美しい中世の壺から多彩な器面装飾が展開された近世の徳利や皿など、丹波焼の歴史を一望します。



丹波《壺》
室町時代後期 兵庫陶芸美術館

イベント案内

第46回 丹波焼陶器まつり「秋の郷めぐり」
丹波焼の魅力あふれるイベントが開催されます。

【期間】10月5日(木)～10月22日(日)
期間中、陶の郷は無休

○陶の郷(丹波立杭陶磁器協同組合)
▼問合せ ☎079-597-2034

・土曜うつわ市・土曜マルシェ
10月7日(土)・14日(土)・21日(土)

・チャリティオークション(飲食ブースあり)
10月8日(日)

○おひるのうつわ展 期間中開催

○各窯元
・窯元めぐり市 限定クーポン券
期間中の平日、抽選で当たった方に配付

・丹波焼宝くじ
・スタンプラリー
・インスタフォトコンテスト
○兵庫陶芸美術館 ▼問合せ ☎079-597-3961

ミュージアムマルシェ
10月15日(日)・22日(日) エントランス棟前広場

・プレゼント 両日共、先着100名様に丹波焼小皿を贈呈

・旬の味覚市、クラフト市、体験市を催し、秋の丹波焼の里の魅力を紹介

・陶芸文化プロデューサー
・最古の登窯案内など

○ぬくもりの郷 ▼問合せ ☎079-590-3377
・「郷めぐり」特別入浴券を陶の郷にて販売
10月7日(土)・14日(土)・21日(土)

丹波焼の里情報コーナーのご案内

「丹波焼 食のうつわ」

9月8日(金)～11月26日(日)

兵庫陶芸美術館 展示棟入口横 観覧無料
企画：陶芸文化プロデューサー
協力：丹波焼窯元等

プレゼントのお知らせ

兵庫陶芸美術館・陶の郷・こんだ薬師温泉の招待券を3施設セットでペア5組10名様にプレゼント。

●応募方法
ハガキに 〒住所・氏名・年齢・本紙の入手場所(○美術館など)・ご意見、ご感想をご記入の上、下記の宛先までお送りください。

●締め切り
2月末日消印有効。応募多数の場合は抽選。

●宛先
〒669-2135 丹波篠山市今田町上立杭4
兵庫陶芸美術館内「陶芸文化プロデューサー」宛
なお、ご応募頂いた方の個人情報(当選者への発送、本紙企画の参考以外の目的には使用いたしません。また当選発表は発送をもってかえさせていただきます。

丹波伝統工芸公園

立杭 陶の郷

丹波焼を『見る・作る・楽しむ』

〒669-2135 兵庫県丹波篠山市今田町上立杭3
TEL.079-597-2034 FAX.079-597-3232
URL.<https://tanbayaki.com>

【入園料】高校生以上 200円
小中学生 50円

【開園時間】AM10:00～PM5:00 (通年)

【休園日】年末年始
毎週火曜日
(但し、祝日は営業します。)

窯元横丁

丹波焼の50軒の窯元の作品を買うことが出来る「窯元横丁」。どこか懐かしあたたかな空間で、ゆったりと買い物をお楽しみいただけます。伝統的な丹波焼からアーティスティックな作品まで、さまざまなやきものが展示販売されています。一つひとつの作品をじっくり手にとりながら、散歩気分であらためてみてください。見ているだけでも楽しくなりますよ。

陶芸教室

丹波焼の郷で、陶芸体験してみませんか。小さなお子様からどなたでも、手びねり(粘土細工)や絵付け体験に挑戦していただけます。釉薬をかけて焼き上げてから、ご自宅まで宅配便で発送いたします。あなただけのオリジナルやきものをつくってみるのも楽しいですよ。